

## 支援を機に社内の知財マインドが向上 今後は攻めの知財活用へ

**本 社** 〒677-0033  
兵庫県西脇市鹿野町1352  
TEL : 0795-23-5510 FAX : 0795-23-6357

**U R L** <http://www.bb-brain.co.jp/>

**業 務 内 容** 通信・情報処理・制御・計測・放送・医療等のコンピューターシステムの研究・開発

**設 立 年** 昭和57年2月 **資 本 金** 5,000万円 **従 業 員 数** 24名



代表取締役社長  
神戸壽氏

創業以来、システム開発全般を手掛けてきたブレイン。同社の強みは、特に画像識別を中心とした技術を構築してきたことであり、この技術を応用して製品化された製品が「BakeryScan（ベーカリースキャン）」である。

ベーカリースキャンは、トレイ上のパンをカメラで撮影し、その個数と種類を一括識別する装置であり、画像識別技術をレジ精算に応用する世界初の製品である。

### ■海外展開に一抹の不安を感じる

同社のベーカリースキャンは、2015年にグッドデザイン賞を受賞するなど、発売以来非常に反響が高く、現在は国内のベーカリーショップへの導入や、その技術については様々な分野へ応用展開が進んでいる。

そのような折、海外からベーカリースキャンの引き合いが日に日に増えてきたことを背景に、同社は香港の展示会に出展し、ベーカリースキャンをPRすることを決めていたという。

なお、同社は、自社パッケージ製品である「織物デザインシステム」をワールドワイドで販売してきた実績を有しているが、その際「知財に関するトラブルなど数多くの苦い経験もしてきた。」と同社神戸社長が語るように、海外展開の難しさも良く理解している。

このような経験から、同社はベーカリースキャンを海外で販売していくことに少し不安を覚え、近畿経済産業局に相談をしたところ、海外知的財産プロデューサーの紹介を受け、支援を受けることとなった。

### ■予定していた展示会出展を中止

まず同社は、海外知的財産プロデューサーと面談の場を設けたが、その際担当プロデューサーから「予定している香港の展示会出展取り止めを勧める。」とアドバイスを受けたという。このようなアドバイスした背景について、同社を担当した久永プロデューサーは「香港は模倣品がとても多いため、国内でグッドデザイン賞をとるほどの同社のベーカリースキャンを展示会に出展する

### 取材企業の声

支援を受ける前は、特許出願等の知財対策を後回しにしていたことは否めない。だが今回支援を受けて、やるべきことはしっかりとやっていかなければ考えるようになった。

今後は、できる限り特許を出願して権利を取得することはもちろんだが、加えて、特許として公開すべきか、ノウハウとして秘匿すべきかを判断しなければならないと感じている。（同社事業推進部 多鹿氏）



創立35年を機に感謝会を開催した同社

ことは、模倣等の被害に遭うリスクがあった。」と語っている。

このアドバイスを受けた同社は、展示会出展の1週間前という直前のタイミングにも関わらず、急ぎょ出展を取り止めたという。この当時はベーカリースキャンの知財対策がまだ不十分だったということもあり、「この時出展を止めておいて本当に良かったと今でも思う。」と神戸社長は当時を振り返っている。

また、香港の展示会出展を取り止めるように同社がアドバイスを受けた際、機器からソフトウェアを盗まれないような対策をする、あるいは特許や商標登録を進める、といった模倣対策に関するアドバイスも担当プロデューサーから受けており、同社はこれらアドバイスをすぐに実行に移したという。

## ■セミナー開催で社員の知財意識が向上

同社への次の支援として、担当プロデューサーが講師を務める知財セミナーが同社内で開催された。このセミナーを受講して「それまでも特許は出していたが、防衛的な意味合いが強かった。今回のセミナーは、取得した権利をどう有効に使うかを社内で考える良いきっかけになったと思う。」と同社事業推進部の多鹿氏が語る通り、同社が今後「攻めの知財」を展開していく大きなきっかけになったという。

なお、この知財セミナーには同社の殆どの社員が参加していたが、セミナーを受講した同社の社員からは



同社の「BakeryScan（ベーカリースキャン）」  
国内のベーカリーショップを中心に導入が進んでいる

「海外と日本との知財に対する感覚の差に驚いた。」  
「技術情報の流出防止対策の必要性を痛感した。」  
「知財は会社の収益を大きく左右するものだ」と再認識した。」といった声が多く聞かれており、同社にとって非常に有意義なセミナーになったことがうかがえる。

このように、今回のセミナーは同社の知財の底上げを図る意味でとても重要であったが、反面、「こういったことを定期的にやっていかなければ社内の知財に対するモチベーションが続かない。」と多鹿氏は語っており、今後は場所を変えて再度セミナーを依頼するなど、同社はさらに海外知的財産プロデューサーの支援を活用していく意向である。

## 支援を振り返って

ベーカリースキャンは、釣銭機との連動が実現したとのことで、今後はPOSとの連動が進んでいくというシナリオが想定されるため、今後は機器単体ではなく、そういったビジネスモデル全体として特許を押さえていくことを検討して欲しい。

また、ベーカリースキャンに限らず、同社は非常に技術力の高さが光る企業である。さらに、神戸社長がロジカルに物事を考えた上で早い決断ができる人物であるため、支援する側としてもとても安心感があり、支援がしやすかったと感じる。（海外知的財産プロデューサー 久永道夫）

### 今後の 事業展開

ベーカリースキャンは、パン以外のセルフレジ用途（野菜や果物の判別など）、精密装置の外観検査、病院での薬剤鑑査など、今後は国内でのベーカリーショップ向け以外にも新たな用途開拓を進めて行きたいと考えている。

また、2016年の10月にはアメリカのパン専門の展示会への出展を決めており、このような機会に海外市場の反応を見極めながら海外展開を模索していきたい。